

# 立川柴崎の地域づくりへの提言 「カルチャーロード柴崎」



平成14年7月

中小企業診断協会東京支部三多摩支会  
地域研究会

# カルチャーロード柴崎

## 目次

1 . はじめに	… 2 ページ
2 . 立川発祥の地「柴崎地区」の自然と歴史	… 2 ページ
(1) 水と実りに恵まれた地域	… 2 ページ
(2) 人の歴史	… 3 ページ
(3) 今日から明日へ	… 4 ページ
3 . カルチャーロード柴崎のコンセプト	… 5 ページ
(1) 失われる柴崎のアイデンティティ	… 5 ページ
(2) 「カルチャーロード柴崎」とは	… 5 ページ
4 . カルチャーロード柴崎の内容	… 7 ページ
(1) モノレール下の道路	… 7 ページ
(2) 諏訪神社・普斉寺	… 10 ページ
(3) 立川崖線・立川公園・柴崎分水	… 11 ページ
(4) 多摩川・残堀川・根川	… 12 ページ
5 . 付録	… 15 ページ
(1) 「立川の歴史と祭り」	… 15 ページ

## 1. はじめに

地域研究会は、多摩地区の地域づくりづくりに関心のある中小企業診断士の集まりです。これまでは、環境問題や福祉問題に関する研究・提言を行ってきました。平成12年からは、多摩都市モノレール開設に着目し、それが地域に与える影響を研究しています。

当初は沿線地域全般への影響が対象でした。ところが研究を進めるうちに、会員の関心事は立川柴崎地区に集中しました。JR立川駅周辺の再開発とモノレールによって、街の姿は新しくなりました。しかし街のアイデンティティは、かえって希薄になったと感じたからです。

柴崎町は、立川発祥の地です。多摩川・立川崖線・根川緑道など自然に囲まれた地域で、大和田遺跡・諏訪神社・普斉寺・柴崎分水など、歴史が刻まれています。一方で、JR立川駅北口のビジネス街とも至近距離にあります。こうした地理的・歴史的特徴を生かした街づくりを考える必要があります。

ビジネス街や歓楽街では、居住者以外の訪問者が主役です。しかし柴崎には居住者が主役の街づくりが必要です。そうでないと、柴崎地区は「ビジネス街の周辺」という地位に埋没する可能性があります。

本提言は、立川柴崎地区の街づくりについて当研究会の考えをまとめたものです。柴崎地区の地域づくり・産業振興のヒントになれば幸いです。

## 2. 立川発祥の地「柴崎地区」の自然と歴史

JR立川駅北口の再開発、モノレールの開通、そして南口の再開発と、今、立川が大きく変化しています。

これまでも立川市は大きな波にさらされながら変化し発展してきました。終戦後は、米軍の進駐に伴う基地の街として発展しました。その後、砂川事件・米軍の縮小・自衛隊基地化による変化がありました。さらに高度成長に伴い、三多摩地区の中核としての商業的に発展しました。そしてモノレールの開通とそれに伴う商業圏の拡大と、この地域を取り巻く環境は目覚しく変化しています。

こうした変化に対してどのように「柴崎地区」の人たちはかかわっていくのでしょうか。興味あるテーマです。立川市、特にこの柴崎地区は大昔から大変に特色のある地域だからです。

柴崎地区のこれからを考えるにあたり、まずこの地域の自然と歴史を振り返ることから始めます。その上で、経済的規模からだけではなく住んでいる人・生活者の視点に立って次の世代の人々に何を、どのように伝えていけるのかを考えます。

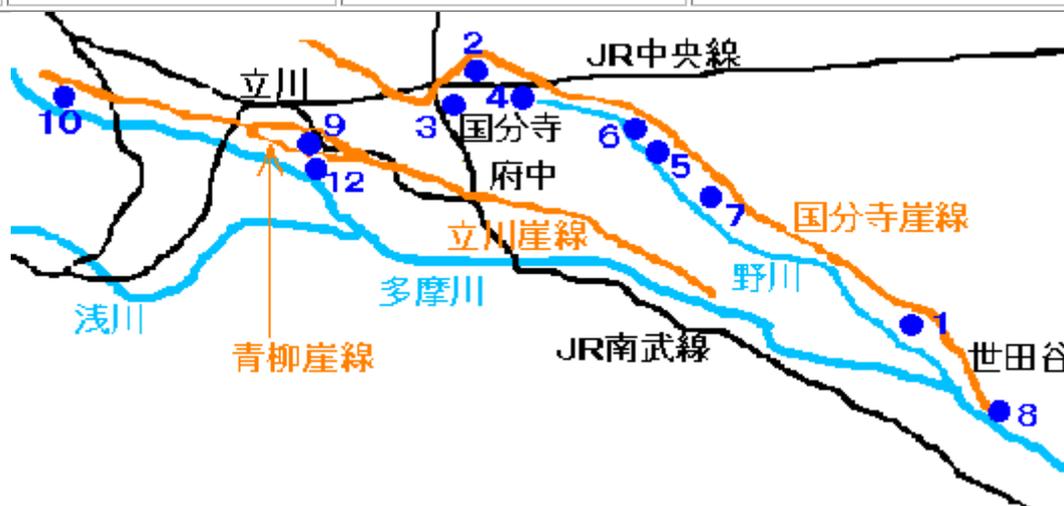
### (1) 水と実りに恵まれた地域

武蔵野の台地を覆っている関東ローム層は、古箱根山や富士山の噴火による火山灰が堆積したものです。その後10数万年の間に、中の鉄分が酸化して赤黒くなり、しっかりと土粒子がくっつきあい安定した地盤を形成しました。土粒子間の間隙は大きく保水性も高く、その生成過程から軽石層も含まれています。

この間に多摩川の洪水、東京湾の海面の低下により河岸段丘を形成していきました。火山の噴火と多摩川の流れの影響から、地層は古い順に13～6万年前の下末吉ローム層、3～6万年前の関東ローム層、1～3万年前の立川ローム層と3層をなしています。そしてこの段丘崖の面に沿って湧水が流れ出ています。今でも比較的豊富な水量を保っているものもあります。

## 立川周辺の崖線と湧水

No.	湧水	段丘	所在地
1	公社大蔵住宅	武蔵野台地・武蔵野段丘	世田谷区大蔵3 - 309
2	日立中央研究所	武蔵野台地・武蔵野段丘	国分寺市恋ヶ窪1 - 280
3	真姿の池(合流点前)	武蔵野台地・武蔵野段丘	国分寺市東元町3 - 19 - 9
4	貫井神社	武蔵野台地・武蔵野段丘	小金井市貫井南町3 - 8
5	野川公園(三鷹市)	武蔵野台地・武蔵野段丘	三鷹市大沢2 - 15
6	野川公園(小金井市)	武蔵野台地・武蔵野段丘	小金井市東町1 - 6
7	都立農業高校神代農場	武蔵野台地・武蔵野段丘	調布市深大寺南町4 - 16 - 23
8	不動の滝	武蔵野台地・武蔵野段丘	世田谷区等々力1 - 22
9	矢川緑地(池中央)	武蔵野台地・立川段丘	立川市羽衣町3丁目
10	拝島公園(日吉神社)	武蔵野台地・拝島段丘	昭島市拝島1 - 10
11	金剛寺	武蔵野台地・千ヶ瀬段丘	青梅市青梅1032
12	ママ下湧水	武蔵野台地・青柳段丘	国立市谷保2963



このローム層の上には「黒ぼこ」と呼ばれる肥沃な黒土が表土として発達しています。豊かな食物を育てるのに最適な土です。立川市に関する資料によれば、約1万年前に先土器時代の人々が活躍し、6千年前には大和田遺跡(柴崎町4丁目5 - 8 ~ 12付近)等に縄文時代の集落が営まれていた跡を見ることができます。柴崎の地区は昔から水に恵まれた、実り豊かな土地だったのです。

## (2)人の歴史

人の営みは、比較的大きな川の近くで、太陽の恵みを受ける南面に面した高台から始まっていると聞いたことがあります。柴崎地区はまさにこの条件を満たしています。

先にも述べたように、南側に多摩川の流れを見るこの地は、大和田遺跡などに見るように少なくとも縄文時代には集落が開けていたようです。その後この地域がどのような状況であったかを知る資料は見つかりませんでした。この恵み豊かな地で集落を形成していったことは十分に想像出来ます。そして間違いのない歴史的な事実としては、811年に諏訪神社が建てられたことです(付録(1)「立川の歴史と祭り」参照)。

立川諏訪神社のホームページから、諏訪神社の歴史的な概要を引用します。

### 諏訪神社の歴史

神様: 建御名方命(たけみなかたのみこと)・誉田別命(ほんだわけのみこと)・大鳥連遠祖神(おおとりのむらじのとお)・建速須佐之男命(たけはやすさのおのみこと)・宇迦之御魂大神(うがのみたまのおおかみ)

歴史: 今から平安時代のはじめのころ1200年ほど昔、長野県の諏訪大神を分けていただいておまつりを始めました。400年ほど昔の豊臣秀吉が活躍した安土桃山時代に火事になって、おやしろや昔のことを書いた本など燃えてなくなりました。その後新しくおやしろを今の場所に立て直しました。神楽殿や結婚式場を建てたり、年々りっぱになってきましたが、最近また火事になってしまいました。それは平成6年10月26日のことです。原因不明の火によって、おやしろや結婚式場が燃えてなくなりました。立川のシンボルである「おすわさま」が燃えてしまったことは多くの人々にとって大変悲しいことでした。火事のあとすぐに神さまに神楽殿に引っ越ししていただいて、それ以来神楽殿を仮のおやしろとしています。りっぱなおみやをみんなでがんばって建てようと委員会を作り募金を呼びかけました。そして新しいおやしろは平成13年にできました。

なぜ諏訪神社がこの地に建てられたのかは不明です。奈良から京都に都が移されてまもなく、年表を見るとちょうど空海や最澄が遣唐使として中国にわたり、戻ってきた頃にあたるようです。その頃に諏訪神社が建てられたことを考えると、すでにこの時代に現在の三多摩の中核的な位置を占めていたのかもしれませんが、或いはそれを意図して立てられたのでしょうか。いずれにしても、地形的なもの、自然の恵みのおかげではないでしょうか。

### (3) 今日から明日へ

このように歴史のある諏訪神社が1200年たった現在も、特別な観光地となっているわけでもなく、静かな住宅地の落ち着いた中にごく自然に溶け込んでいるのは驚きです。

以前この地に住んでいた人の感想を紹介します。

「平成13年8月に26年目を迎えた『お諏訪様のお祭り』が行われました。つい最近このことを知り、大変感動しました。私が小学生であった40年以上前の夏の思い出として、諏訪神社のお祭りは大変印象に残っています。立川の各地区から神輿が集まり(どんぐり神輿と言った喧嘩神輿もあったと記憶しています。)、お化け屋敷、見世物小屋、各種屋台が立ち並び、大変な賑わいでした。」

「神社のすぐとなりが通っていた小学校であったこともあり、普段に境内でソフトボールをやったりもしました。何かの時に相撲大会に参加したたこともあります。先日の日曜日に神社を訪ねた折には、その土俵はまだそこに残っていました。武道館では柔道の練習が、弓道場では何らかの大会のためのようで女性を含む何人かの方が練習をされていました。」

「50年前と少しも変わらない風景がそこにはありました。」

このように柴崎の地域は、地域の人々のエネルギーが歴史を作り現在まで続いているのだとの思いが強く感じられました。それでは、私たちはこのような柴崎地区の



人々にどんな文化・歴史といったものを伝えていけるのでしょうか。人々のつながりが希薄になってきているといわれている現在、このような豊かな自然と歴史に恵まれた柴崎地区にふさわしい、後世に自信を持って残すことができる生活に根ざした提案ができればと思います。

### 3. カルチャーロード柴崎のコンセプト

#### (1) 失われる柴崎のアイデンティティ

柴崎の新しい歴史にモノレールが加わりました。ガソリンをまき散らして走る自動車よりクリーンです。電車よりも低騒音です。環境に優しい乗り物と言えるでしょう。駅の設置間隔も比較的短く、地域の人々にとっては身近な乗り物になり得ます。地域づくりの新しい夢を育てるチャンスです。

しかしJR立川駅まで歩ける距離ということも手伝って、柴崎地区にとってモノレールは街づくりに役立っているとは言えません。モノレールと共に新しくなった道路、これまで比較的身近で親しみやすかった駅前の商店街を大きく分断し、お向かいさん同士を疎遠にしまいました。

モノレール下の道路は、JR立川駅で行き止まりという構造的な弱点があり、「新しい」という点を有利なものとして生かし切れていません。現状では中途半端なものとなっています。沿線の建物も、商店・商業ビル・公共施設・オフィスビルなど軒並み新しくなりました。しかし統一性が感じられない味気ない街並みになってしまいました。

「文化」「歴史」「自然」といった「柴崎らしさ」が失われています。モノレールは、場違いなよそ者という印象すらあります。モノレール下の道路も、単に広くなっただけの「でくの棒」と見えます。何とかしてモノレールや新しい道路を「柴崎らしさ」に融合できないでしょうか。ビジネス街とは違う、居住者が主役の街にできないでしょうか。

#### (2) 「カルチャーロード柴崎」とは

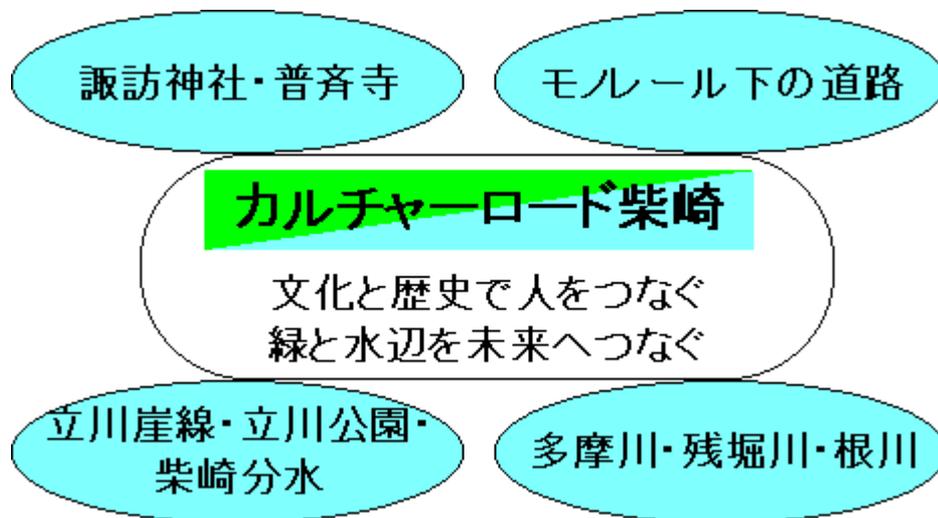
私たちの住んでいる地域と、そこに関連する環境は、時とともに変化しています。技術の進展、経済の変化、そして私たち居住者自身の就学・就労・転勤などによる変化もあります。長期的には世代交代による変化もあるでしょう。しかし、そのような変化の中にあっても、地域づくりの主役は居住者であることには変わりありません。そして、それを可能にするには、しっかりとした軸が必要です。それは「柴崎らしさ」の源である「文化」「歴史」「自然」です。

「カルチャーロード柴崎」とは「文化」「歴史」「自然」をテーマにした街づくりです。つぎのような考え方で活動を展開します。

<p>考え方1 「文化と歴史 で人をつなぐ」</p>	<p>地域づくりの基礎は、人と人のコミュニケーションです。しかし会話が成り立つには、言葉を知っているだけでは不十分です。その背景にある文化と歴史が人々の間で共有されている必要があります。</p>
<p>考え方2 「緑と水辺を 未来へつなぐ」</p>	<p>時間とともに、居住者は変化します。しかし人が変わっても守るべきものがあります。それは柴崎にある緑と水辺です。守るだけでなく、市民生活における緑と水辺の効用を拡大する方向に積極的に変化させ、未来の世代へ引継ぐべきです。</p>

地理的な拠点として次の4ヶ所に着目します。

拠点1「モノレール下の道路」	カルチャーロード柴崎の地理的な主軸です。単なる交通路ではなく、文化と歴史を共有する人が交流する場をめざします。
拠点2「諏訪神社・普斉寺」	いにしへの立川文化を残す拠点です。現在でも「諏訪祭り」や「だるま市」など人が集まるイベントがあります。また緑の拠点でもあります。
拠点3「立川崖線・立川公園・柴崎分水」	居住者のすぐ身近にある用水・湧水と緑です。これらの保全活動を地域づくりの基盤のひとつにします。
拠点4「多摩川・残堀川・根川」	水辺と緑の拠点です。川沿いの自然・文化に親しみ、さらに他地域との交流の契機となり得る拠点です。



## 4.カルチャーロード柴崎の内容

4つの拠点別に「カルチャーロード柴崎」の内容を提案します。

### (1)モノレール下の道路

#### 現状

立川南口の歩行者デッキは、モノレールの立川南口駅へ接続しています。下の道路はモノレール建設に合わせて拡張され、モノレール柴崎体育館駅から多摩川方面へ続いています。モノレールを走行させる必要性から、昔の駅前道路を拡幅しました。その結果、従来の商店街を分断し、東西の人的交流を疎遠にしまいました。

沿道には、銀行・商店・飲食店・公共施設などが並んでいます。しかし大型商店・施設・公園など人が集まる核となる施設がないこと、駐車場が多いこと、空地や空店舗が目立つことから人々の交流の場としての機能は弱くなっています(付録(2)「モノレール下の道路」参照)。また人工的な建造物が目立ち、自然とは縁遠い印象です。

しかし物理的に大きな面積・長さを持っています。人の交流や自然に親しむ目的に沿って整備すれば、「カルチャーロード柴崎」の中心軸となり得ます。



モノレール下の道路(柴崎町)



駐車場となっている空地(柴崎町)

#### 提案内容

##### < 道路名とシンボルマーク >

立川南口西地区の商店街では、道路毎に愛称を命名しています。モノレール下の道路と主要な道路についても公募で愛称を決めます。また、「カルチャーロード柴崎」の活動全体を示す**シンボルマーク・シンボルカラー・ロゴ**を制定します。掲示物や配布物に、そのシンボルマーク等を統一的に使うようにします。**建造物の新設・改修時にもシンボルカラーを使う**ようにします。

「柴崎」という漢字は、もともと緑と水に関連しています。例えば緑と水をイメージさせるグリーンとブルーを使って、シンボルカラーやシンボルマークを構成する案が考えられます。

##### < 歩行者デッキの緑化 >

立川南口からモノレール駅へ続く歩行者デッキは、それ自体が人工的な建造物です。しかも周囲には大型のビルが立っています。北口のビジネス街とは違うアイデンティティを印象づけるには、柴崎地区の入口にあたる歩行者デッキが重要です。

**歩行者デッキに、花壇・プランターを配置**し、四季折々の花の咲く植物を植えま。商店街と町内会で共同運営すると良いでしょう。



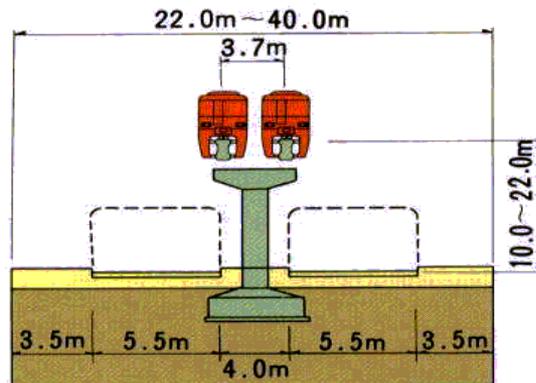
立川南口の歩行者デッキ(柴崎町) モノレール軸(柴崎町)

### <モノレール軸と歩道の緑化>

現在、モノレールの軸は、その下の道路の中央分離帯に立っています。中央分離帯には低木が植えてあり、さらにモノレール軸を保護するためのガードレール敷設されています。道路の反対側の歩道も緑化されていますが低木が中心です。

人工的な景観を緑豊かにするために、次のように変えます。まず、中央分離帯に背の高い木を配置します。**ガードレールは廃止**し、この木によってモノレール軸を保護します。歩道側も背の高い木を植えます。また歩道には**季節の花を楽しめる花壇**を配置します。

花壇の運営は、歩行者デッキの緑化とともに商店街と町内会で運営します。この道路を使って開催されるイベントにあわせて、年1回**花壇コンペティション**を開催します。来訪者の投票で優秀花壇を表彰するといった内容を盛り込みます。



モノレール軸の構造

### <モノレール下の道路を歩行者中心に>

甲州街道と新奥多摩街道が接続する五叉路から、立川市役所を經由して立川北口へ続く道路があります。この道路は混雑することが多く、モノレール下の道路がその迂回路となっています。モノレール下の道路は居住者の車だけでなく、迂回する車が通っています。

モノレール下の道路を「カルチャーロード柴崎」の拠点にするために、車の交通を減らす必要があります。五叉路から立川北口へ続く道路を整備し、**南北方向の交通渋滞を緩和**します。そのうえでモノレール下の道路は居住者中心の道路に作りかえます。

具体的には、まず**直線の道路をやめ緩やかな曲線**とします。道路の幅も一定ではなく、所々に狭い場所を設けます。横断歩道を増やし、横断歩道と次の**横断歩道の間隔を20m以内**にします。さらに車のスピードを抑制するため、横断歩道も通常とは違う形とします。歩道と同じ石畳風の仕上げとし、さらに車道より5cm程度高くなります。歩道には、**モニュメントや彫刻を配置**します。そのモチーフは歴史や自然にちなんだものとします。

これらの整備は、資金が必要です。自治体が主体で進める必要があるでしょう。下の写真は、相模原市の例です。歩道は曲線で構成されたレンガ貼りとなっています。ベンチが設置され、水もあしらわれています。街路樹の下には、岡本太郎氏制作のモニュメントをはじめ、彫刻が配置されています。



参考例: グリーンプラザ通り(相模原市)

### < 常設の展示スペース >

公民館などを利用したサークルで、陶芸・絵画・写真などの愛好者が活動しています。そうした活動の成果や、文化的・歴史的な財産を展示スペースで紹介します。

具体的には既存店舗やオフィスのショーウィンドウの一部を、1平方メートル程度を一区画として展示スペースとして提供してもらいます。また新規建物には、建築計画段階から「カルチャーロード柴崎」用のショーウィンドウスペースを組み込みます。

先に示した写真(駐車場となっている空地)のような50平方メートル程度の小空地はポケットパークとして整備します。ベンチ・トイレなどとともに、展示スペースを設置します。



展示スペースのある店舗(柴崎町)

### < 店舗のカルチャー化 >

モノレール下の道路は、空き店舗、空き地、駐車場などが残っている。これらの場所に店舗を誘致する時に、ガイドラインを設けます。例えばガーデンテラスを持つレストランや喫茶店、ブティックなどを優先させます。また花屋、ガーデニングショップなど、「グリーン関連店」も優先度が高いでしょう。

既存業態の店舗だけでなく、新規業態の店舗も考えられます。例えば、「グリーンライフを提案する店」として、花・ガーデニングだけでなく、リサイクルペーパーや、非木材パルプ紙を材料とする商品の販売、消費者農場で収穫した野菜の販売、湧水保全ボランティア活動の募集などを行う店があれば「カルチャーロード柴崎」に相応しいでしょう。

店舗以外の建築物もカルチャー化することが望まれます。ガラス開口部を広くとって中の見えるオフィス、飾り窓のあるオフィス、生垣のある住宅、出窓に花を飾る住宅などに対して、自治体が優遇策をとることもカルチャー化に有効でしょう。



おしゃれな店舗(柴崎町)

### < 歩行者天国とイベント >

イベントに集まる人の交流がコミュニケーションを生み出します。休日にモノレール下の道路を歩行者天国にすると各種イベント会場として利用できます。

フリーマーケットは集客力の高いイベントです。柴崎中央公園では、「ラストin柴崎」というフリーマーケットが商店街主催で開催されていた時期があります。モノレ

ール下の道路を使えば、さらに大規模なフリーマーケットが開催できるでしょう。

「植木市」「ガーデニングフェア」「大道芸」「ストリート音楽」「エコフェスティバル」「写真撮影会」「ミニマラソン」「朝市」「将棋・囲碁大会」など種々のイベントが考えられます。道路をいくつかの区画に分けて、「マーケット広場」「ふれあい広場」「お祭り広場」「芸能広場」などの名前を付ければ、同時に複数のイベントを開催することも可能です。

例えば、「マーケット広場」で「植木市」を開催し、植木、盆栽、花卉など伝統的な観賞用植物を販売します。同時に「ふれあい広場」では、洋風のガーデニングに使われる植物や用品の露店による「ガーデニングフェア」を開催し、「お祭り広場」で、栽培や手入れの相談所と花壇コンペティションを開催するということもできるでしょう。

こうしたイベントの運営は、商店街組織に属する店主だけでなく、その家族や自治会、サークルなど幅広い人材で運営することが望まれます。

## (2) 諏訪神社・普濟寺

### 現状

諏訪神社、普濟寺ともに古くから柴崎の宗教的・文化的中心地として存在してきました。普濟寺は立川における学校教育発祥の地として知られています。現在でも祭り・散策・武道など住民の集まる場所として機能しています。その機能をさらに拡大することが課題です。

また緑の残る場所でもあります。諏訪神社の境内裏手には諏訪の森公園があります。かつて鎮守の森だったそこには木々が高く茂り、すでに緑の一大拠点となっています。立川で最古のケヤキも諏訪神社の近くにありません。普濟寺には、イチョウなど古木が立っています。周辺の民家にも古木が多く残っています。これらをどう保全するかが課題でしょう。



諏訪神社(柴崎町)

### 提案内容

#### < 新たな祭りの発掘 >

柴崎地区には、歴史的な背景を持つ祭りがあります。「立川諏訪祭り」「立川よいと祭り」「普濟寺のだるま市」などが毎年開催されています。しかし柴崎には歴史と自然を背景にした祭りやイベントがまだまだ開催できるはずで、例えば「湧水祭り」「ケヤキ祭り」などが考えられます。モノレール下の道路では、現代的なテイストのイベントが中心になるでしょう。歴史的なテイストを持つ祭りを諏訪神社や普濟寺で開催することで、祭りとイベントのコントラストが柴崎の印象を鮮明にするでしょう。

#### < グリーンマイレージ >

諏訪神社・普濟寺と周辺の民家は、緑が豊かです。しかし古木が多く、その保全には手間がかかります。下草刈りや落ち葉の清掃などに、市民が協力するのが理想です。

木の保全活動などのボランティアに対して、「グリーンマイレージ」と呼ぶポイントを貯める制度を導入します。具体的には木の保全活動だけでなく、湧水の保全ボランティア、柴崎分水の保全ボランティア、花壇コンペティションへの参加などにポイントを付与します。

貯まったポイントは、地域貨幣として商店街で商品を購入する際に割引に使っても良いし、次項の木の里親制度に使ってもよいものとします。

### <木の里親制度>

グリーンマイレージで貯まったポイントで木の里親になれる制度を導入します。木の里親とは、木の保全に協力した人の榮譽を称えるものです。

まず、対象の木1本1本に背番号をつけます。グリーンマイレージを一定ポイント以上貯めた人は、どの木の里親になるかを選択します。そして里親の名前を現地のカンバンやインターネット上のホームページで公開します。

里親になった人は、毎年一定ポイント以上のグリーンマイレージを新規に獲得しないと、その権利を失うものとします。

### (3)立川崖線・立川公園・柴崎分水

#### 現状

立川崖線の急傾斜地は、商業や住宅地として利用できません。その代わりケヤキを中心とした木の聖域となっています。崖線の両側には、鬱蒼とした木々に覆われた広い敷地を持つ個人の住宅も見られます。

立川公園は、立川崖線の下部に位置します。公園内にある花菖蒲園は、崖線の下部から出る湧水を利用しています。これらの緑と湧水は「カルチャーロード柴崎」の重要な財産です。

柴崎分水は、玉川上水から取水しています。柴崎では、道路脇に流れています。多くは暗渠となっていますが、所々で顔をのぞかせています。

立川公園横には水田があり、分水はその脇を流れています。かつて農業用水として使われた分水ですが、現在では柴崎の歴史の象徴となっています。



立川崖線沿いのケヤキ(柴崎町)

#### 提案内容

### <木の里親制度>

諏訪神社・晋斎寺と同様、立川崖線沿いの傾斜地と立川公園周辺には、ケヤキを中心とした樹木が多く残っています。

これらの木々に対しても、木の里親制度を適用します。立川公園の花菖蒲園もいくつかの小区画に分割して、里親制度を適用します。

### <湧水の保全ボランティア>

崖線から流れ出す湧水は、周辺の植物や昆虫の命を育てています。その環境を守るには、ゴミ掃除などに人手がかかります。環境保全に市民ボランティアの協力が不可欠です。商店街と町内会が中心となって、湧水の保全ボランティアを実施します。

地元の市民だけでなく、地域外の市民の参加も募ります。また、小学校の授業の一環として自然観察と掃除などを組合せた活動としてもよいでしょう。ボランティアに参加した人には、グリーンマイレージを付与し、グリーンショップでの買い物や木の里親になるためのポイ



参考例: 矢川(国立市)

ントに利用できるようにします。

似たような活動の例として、立川市と国立市の境から流れ出す矢川の保全ボランティアがあります。東京都が主催し、矢川の自然探訪会や掃除などの活動を行っています。

### < 水車の復元 >

柴崎分水は、暗渠となっている部分が多く地元でも知る人が少なくなっています。その存在と水の効用を再認識させるために、かつてこの地に多かったと言われる水車を復元します。

候補地としては消費者農場が考えられます。柴崎町にある消費者農場の横に、柴崎分水が流れています。水路を一部拡幅し、そこに水車小屋を建てます。

日野市高幡不動にある向島親水路には水車が設置されています。近くの小学生が水の効用を学ぶ場として活用されています。



参考例: 向島親水路と水車(日野市)

### < 分水の里親制度 >

木の里親と同様の制度を柴崎分水にも適用します。分水の保全活動などのボランティア活動に対して、グリーンマイレージを付与します。グリーンマイレージで貯まったポイントで分水の里親に登録できるようにします。

分水を5m程度の区間に分割し、それぞれに管理番号を設定します。グリーンマイレージを一定ポイント以上貯めた人は、どの区間の里親になるかを選択します。そして里親の名前を現地のカンパンやインターネット上のホームページで公開します。



参考例: お鷹の道(国分寺市)

保全活動によってクリーン化した水辺にホタルを生息させることを、分水の里親制度の目標とします。右の写真は、国分寺市のお鷹の道です。道の脇には姿見の池から流れ出す用水があります。用水とその周辺の植生を整備することによって、夏にはホタルが飛ぶようになりました。

## (4)多摩川・残堀川・根川

### 現状

普濟寺の崖下を流れる残堀川は、近年水質保全に取り組まれています。コイなどの魚影も濃く、春には川岸にある桜並木が花を咲かせます。

根川は、昔の流路を利用した親水緑道として整備されています。散策する市民が多く、夏には水辺で遊ぶ子供でにぎわいます。

新奥多摩街道を越えると東西方向に多摩川があります。川岸には市民運動場があり、市民が散歩・サイクリング・釣りなどを楽しんでいます。

### 提案内容

#### < 日野の渡しの復活 >

多摩川の河川敷にある市民運動場などは、緑と水辺に関連するイベントだけでなく、市民交流の場として活用の余地が多いでしょう。こうしたイベントの際に、日野の渡しを復活させます。

対岸の日野市にはスポーツ公園があり、各種イベントの会場として使われています。日野の渡しを通じた、日野市民との合同イベントも考えられます。



日野の渡し碑

#### < 周遊コースの設定 >

柴崎の水辺を楽しむ人を増やすため、周遊コースを設定し案内板、標識を設置します。右の写真は、既にある周遊コースの案内図です。コースのバリエーションを増やし、案内図の設置も増やします。



歴史と文化の散歩道案内図

#### < 他地域との連携 >

「柴崎の緑と水辺を守る会」を作り、地元の環境保全を図るとともに、他地域とも連携して地域環境保全の輪を広げます。

多摩都市モノレール沿線には、他にも矢川・玉川上水・高幡不動など緑と水辺を残す地域があります。これら地域とグリーンマイレージの交換やスタンプラリーなど連携活動を推進します。活動を通じて柴崎地区だけでなく、多摩に残る「文化」「歴史」「自然」を、未来の世代へ引継ぎたいものです。

## 提言内容の要約

カルチャーロード柴崎 「文化と歴史で人をつなぐ」「緑と水辺を未来へつなぐ」	
提案内容	
モノレール下の道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 道路名とシンボルマーク &gt;</li> <li>&lt; 歩行者デッキの緑化 &gt;</li> <li>&lt; モノレール軸と歩道の緑化 &gt;</li> <li>&lt; モノレール下の道路を歩行者中心に &gt;</li> <li>&lt; 常設の展示スペース &gt;</li> <li>&lt; 店舗のカルチャー化 &gt;</li> <li>&lt; 歩行者天国とイベント &gt;</li> </ul>
諏訪神社・普斉寺	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 新たな祭りの発掘 &gt;</li> <li>&lt; グリーンマイレージ &gt;</li> <li>&lt; 木の里親制度 &gt;</li> </ul>
立川崖線・立川公園・柴崎分水	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 木の里親制度 &gt;</li> <li>&lt; 湧水の保全ボランティア &gt;</li> <li>&lt; 水車の復元 &gt;</li> <li>&lt; 分水の里親制度 &gt;</li> </ul>
多摩川・残堀川・根川	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt; 日野の渡しの復活 &gt;</li> <li>&lt; 周遊コースの設定 &gt;</li> <li>&lt; 他地域との連携 &gt;</li> </ul>

## 5. 付録

### (1)「立川の歴史と祭り」

## 執筆者

飯島康 (第2章 第4章 第5章)

細谷和丈 (第4章)

若槻直 (第1章 第3章 第4章 第5章)

川島直行 北口良夫 黒田裕之 関明 真野和彦(編集協力)

## 地域研究会名簿(50音順)

No.	氏名	自宅住所	電話 FAX	専門分野
1	飯島康	180-0011 武蔵野市八幡町1-4-34 y-ijima@muj.biglobe.ne.jp	0422-54-4275 0422-54-4275	(建築関係) 経営管理・施工管理 経済性分析
2	神尾敬一	181-0014 三鷹市野崎3-20-20 keiichi.kamio@bjbank.co.jp	0422-33-8189 0422-33-8189	資金調達 株式公開支援
3	川島直行	189-0014 東村山市本町1-10-2プランドール101 n-kawa@f4.dion.ne.jp	042-391-2647 03-3200-1055	財務分析・管理 流通マーケティング戦略 商店街・卸小売業診断
4	北口良夫	208-0021 武蔵村山市三ツ藤1-60-14 kitaguhi.keiejimusyo@nifty.com	042-560-2260 042-560-2260	品質・環境ISO 生産性向上 コストダウン活動
5	黒田裕之	168-0073 杉並区下高井戸2-8-9 kuroda-cal@hkg.odn.ne.jp	03-3321-2365	知的財産権管理 特許戦略
6	関明	181-0013 三鷹市下連雀6-2-12-101 a-seki@nifty.com	0422-46-1015 0422-46-1045	経営計画の立案 経営戦略・市場戦略
7	野口能孝	180-0022 武蔵野市境3-19-3 fwne05554@mb.infoweb.ne.jp	0422-52-0395 0422-52-0395	
8	細谷和丈	187-0022 小平市上水本町6-5-8-204 whosoya@topaz.onc.ne.jp	0423-22-5387 0423-22-5723	環境・品質ISO 組織活性化・CS 事業計画作成支援
9	真野和彦	180-002 武蔵野市境南町4-9-14エクセレントM1 pxb05065@nifty.ne.jp	0422-32-8812 0422-32-8812	プロジェクト管理 環境管理 事業計画
10	若槻直	229-0032 相模原市矢部1-23-18 n.wakatsuki@mx2.ttcn.ne.jp	042-755-8296	ビジネスモデル設計 生産プロセス改革 生産情報システム開発
役員		代表: 若槻直 副代表: 真野和彦 会計: 若槻直 総務: 細谷和丈 神尾敬一 関明		